

# 本を選ぶ

## 高校図書館版

NO.69 2020年(令和2年)5月20日  
<https://www.las2005.com>

●発行/ライブラリー・アド・サービス  
〒335-0004 埼玉県蕨市中央5-20-1 TEL=048-432-3726

●●●●●ろん・ぼわん●●●●●

### ライ麦畑で

五味 遊由

高校3年生の娘が話す学校の話に、同級生のMくんがよく登場する。Mくんは、娘によれば学校で唯一、本についておしゃべり出来る人。いつも本を読んでいて、お薦めの本を教えてくれることもあるとか。

いつだったか、「Mくんは学校で熱弁をふるわれて困っちゃった。サリンジャーなんか学校で読むものじゃない」と娘が興奮して帰ってきたので、聴いてみると、娘が授業の合間に読んでいた『ライ麦畑でつかまえて』を見るや、Mくんはいかにその本が面白いのか、心を揺り動かされたかを滔々と語りだし、とまらなくなって大変だったとのこと。話の最後にMくんは、「それでね、僕の将来になりたい職業は、(野崎版の)269ページに書いてあるんだよ。ライ麦畑で遊んでいる子どもたちが、崖から落ちそうになったらつかまえる仕事、それがやりたいんだ」と話したとか。そして、興奮冷めやらぬMくんはまた別の標的を見つけ、近くにいた男子にも『ライ麦畑でつかまえて』を薦めていたとか。

「269ページってねえ。私には何か、主人公がごちゃごちゃ自分のことを説明するのが、読みにくくて…。とにかくMくんの前ではもうこの本は読まない！」と娘は苦笑いしていたが、その269ページ前後を拾い読みした後は、どうやら読むのを断念

してしまったようだ。

その時は、「Mくんって“いいヤツ”かもね。ライ麦畑の崖から落ちそうになる子どもをつかまえて助ける仕事って、どんな仕事かなあ」と娘と話して終わったのだが、それが先日、赤坂の「双子のライオン堂」という書店の店主へのWEBインタビュー記事にたまたまこんなくだりを見つけて、何だかストンと腑に落ちたのだ。

「高1のとき『ライ麦畑でつかまえて』を読んだ。最終章で主人公がライ麦畑の崖から落ちそうな子どもたちを守る仕事がしたいというくだりに、“それ、ぼくもやりたい”と思った。そんな仕事があるかわからないが、もしあったら子どもたちをちょっとだけ助けられることができる。

今、ライ麦畑で子どもたちをつかまえる仕事と書店業に共通項を感じている。

“ぼくもこの本屋の仕事で作家と読者の媒介役として役に立ちたいなって。本によってきっと救われると思っているからですかね”(ニッポンドットコム <https://www.nippon.com/ja/japan-topics/c07101/>より)。

高校生でこの本に心奪われた二人の言葉を見聞きして、「本と出会う」とはそういうことなのかもしれないとワクワクしてしまった。

今、コロナウィルスの感染拡大で、子どもたちはなるべく家でおとなしく過ごすことを強いられている。不意に得られた長い休みに、集中して何かを作ったり観察したり、読もうとも思わなかった本に手をのべしたり。驚きや楽しみを見つけてくれたらいいなあと思っている。(ごみ ゆう)

# 生徒が試みた「書き方改革」

—図書館報に載せる“わたし”の原稿—

成田 康子

## 同じ本にするか自由に選ぶか

図書局員に、新たな役割が回ってきた。全道図書研究大会（北海道高等学校文化連盟主催）が2018年は札幌の開催で、13分科会の一つを運営することになったのだ。道内各地から100校余りの高校の図書局（委）員が2日間日程で交流する。顧問も加えると500人規模の、1979年に始まり、40回目の開催となる。

分科会は約3時間、参加人数は20名余の想定だ。こちらのスタッフは9名。できることといたら「図書館報」に関してくらいかな、と思いつかべている。自分たち流の「書き方」（前号参照）を伝えたい。そのほうが心に響くものがある。本を紹介する文章を書くための過程をどう実現するか。

参加を誘う案内は、〈図書館報の原稿を書いてこう思うことって多い。「なーんかうまく伝わってないようで納得いかない」「思ってることがなかなかすぐに原稿に反映されずに悩んじゃう」／そんなとき自分はこうしますよ、とかつて話が聞けたらちょっとうれしいかも。ざっくばらんにおしゃべりしてみませんか〉とした。事前に送ってもらうものは、図書館報に掲載する本紹介の原稿を300～400字程度。当日は筆記用具と題材の本を持参してもらう。

さあ、どのように進めるのか。前年までの分科会とは違う内容のせいも、誰も具体案を出せずにいる。初対面の参加者に意図を伝え、理解を得て思いを共有し、実際に書いてもらうにはどうすればいいのか。

同じ本を題材にするとやりやすいのでは、という意見が出て、館内から候補本を集めてくる。これはと思う本を一冊ずつ順番にテーブルの中央に置く。が、「どの本とも決められないし、そもそも本を指定するのは違うんじゃないか」と誰かが言い出して、結局、いつもやっているように自分で選んだ本がいいね、と落ち着く。10月初旬の開催まであと1ヶ月半。ああでもない、こうでもな

いとの日々が過ぎていった。

## 紹介文に典型ってあるのだろうか

事前に寄せられた紹介文の一例。『黒冷水』羽田圭介・著 河出書房新社を読んで「今日はわざわざ抑えながらこのために部活をサガって帰ってきたのだ」「修作は、はやる気持ちを抑えながら、ドアを静かに開けた」／兄の部屋を偏執的に「あさる」弟・修作。彼の楽しみである「あさり」は完璧に遂行される必要があった。絶対に兄にバレてはいけな。／しかし、修作の兄・正気は、弟の雑で拙い「あさり」の隠蔽作業をいともたやすく見抜いていた。正気もまた、修作の「あさり」に対して執拗に罽を仕掛け、報復を繰り返す。兄弟の憎悪にまみれた「冷戦」を描いたのは、2015年に芥川賞を受賞した羽田圭介。当時17歳の羽田が描く、「家庭内ストーリーキング」とも言うべき兄弟間の薄暗く歪んだ関係はまさに「異常」の一言に尽きる。文体から溢れるスピード感がページを繰る手を止めさせてくれない、2003年の文藝賞受賞作。

シナリオが少しずつ決まってくる。「①原稿を直すレクチャー：事前の原稿をもとに傾向を分析（グループ添削をしやすいするため）。以前書いた原稿をパワーポイントで例示し、ビフォーアフター的に見せる。難しくなりすぎずグループ添削に入りやすい雰囲気をめざす／②グループごと：持参した本をそれぞれが紹介。あらすじとか好きな理由ではなく、惹かれたところとか本との出会いとか、読んで考えたこと感じたこととかをしゃべってもらう。聞く人たちがメモを取る。3～4人が一斉にメモするのですべて書かなくても大丈夫と伝える。聞く人は自由に質問していい。まず自分たち局員が聞く。次第に他の人も（詰まったら何か質問して引き出したい）。そこで気がついたことを付箋に書き原稿に貼る。各自それをもとにして、原稿を直す／③留意点：6グループに局員が一人ずつ加わる。多分、話が進まないとい

思われるので、局員は練習が必要か。途中、適宜相談にのる（成田先生もいるし）。進み具合をみてお菓子を配り始め、リラックスしてもらおう／④終盤：訂正原稿を集めコピーしてくる。その間に元の原稿冊子を配り、読んでいてもらう。なんとなく終わる」

グループ分けをくじにすると決め、「はずれを入れたら」などと楽しんでいる。

### 自分にしか書けない文章を書く、という体験

当日、司会役から局員の紹介と原稿のお礼が述べられ、シナリオが進められた。

参加した生徒の感想がある。

〈私は初め、「自由に書くこと」を心掛けていました。しかし、当番校のみなさんが作って下さったスライドを見たり、アドバイスを聞いたりしながら、私の意識は変わりました。「本のあらすじを入れなければならない」という枠にとらわれていたことに気がついたのです。自分の主観や読んで思ったこと、感じたこと、その本との出会いなどを入れて書いても良いんだということ学びました。ただただとらえられず、あらすじを書きつづるよりも、自分の言葉で、自分の思ったことを伝える。そして、読み手が読みたいと思うような文を書く。これが本当に「自由に書くこと」なのだと思います。自由に書くと、あらすじはどこまで書けばいいのとか、物語に正しく忠実にかかかなければ、ということを考える必要がなくなりました。代わりに、本を読んだ感動や考えたこと、魅力を伝えられると思うとどこからか喜びが湧きあがってきました。〉

局員が「自由ってなかなか難しい代物ですね。難しいだけに手に入れたときはうれしい」とコメントしている。

前述の『黒冷水』の紹介文（再校）。

「小学生の頃、妹に机の引き出しを勝手に開けられ、不快に思った記憶がある。腹が立った私は、妹の部屋を荒らし返し、最終的にはケンカの後双方が大泣きの状態で事件は幕を閉じた。／現在高校生の私と中学生の妹、今ではほとんどケンカもない平和な姉妹だ。しかし我々思春期の人間ならばそのほとんどが、自分のプライベートな空間である「部屋」に勝手に踏み入れられたくないと感じていると思う

し、ことさら兄弟姉妹に部屋の中を歩き回られるのはとても気持ちの良いこととは思えないのではないか。／『黒冷水』にはとある兄弟が登場する。弟・修作は兄の部屋の「あさり」を行い、兄の正気は弟の「あさり」に対する報復を続ける、いわば陰湿な「冷戦状態」の兄弟である。／「〈あさり〉が不快なのは分かるけど、本当にこんな恐ろしい兄弟が存在するのか？」その疑問に対してリアリティを裏付けるのは、執筆当時17歳の著者による緻密すぎる心情描写なのである。」

### 一度限りの、二日間で出会った人へ

スタッフの局員たちは各グループのまとめ役として緊張していたようだ。

「初めはなんとも気まずい空気になってしまいました。みなさん、すみません。／でも、本紹介は盛り上がりました。それぞれいろんなことを考えているんですね。話を聞いて、私もいろいろ考えました。隠れている考えを引き出すのも、引き出されるのも、わくわくするんですね。やっぱり誰かと話すと考えが深まります」

「偶然居合わせた数時間限りのメンバーなのに、いきなり本紹介をしたり、原稿を読みあたりする。初対面で、すぐ本の話ができるのは、図書館ならではのすてきな特権だった。世間話が苦手な私でも、なんだかいろいろ話せた。みんな、前にどこかで会ったことがあるような気がして、ふしぎだった。／原稿のすきまから、それぞれの考えていることが垣間見える。深入りしない方がいいかなと思ったけど、やっぱり聞きたいから聞いてみる。話してみると、思ったより共感できた。回し読みしたら、共感してもらえた。今日だからなれた自分がいた。うれしかったなあ。またいつか会いましょう」

反応もほしいし、共感もしたい。だから読んでほしい。「本は読まなくても原稿は読んでほしいよね」と聞こえてくる。本を選んで、読んで書いて、聞いて話して、見せ合って、と誰に向けて文章を書くのかを考える時間が訪れた。

（なりた やすこ：北海道札幌南高校）

（『第40回全道高等学校図書研究大会集録』から一部引用）

# #図書館は動きつづける

—新型コロナウイルス感染対応の緊急事態宣言の下で

中山 美由紀

おそらく、私たちは3月以前の世界に戻れることはないだろう。新しい世界のカタチ、新しい生き方を新しい価値観の中で探っていくことになる。

## 突然の臨時休校で一気に進む「教育の情報化」

2月27日晚の首相による全国の学校への臨時休校要請と、4月7日の全国の緊急事態宣言、さらに延長されて5月末までの休校となる。おそらく半年、1年と影響は続いていくのだろう。

3月はまだ、終息を信じて、学校の教員たちは課題づくりと配布という緊急の対応だった。しかし、感染者は増えていく。4月の異動、着任の後、すぐにも出せたであろう緊急事態宣言が遅れた。緊張の中での始業式、入学式を迎えるや否やで再びの休校。1日、半日で対応の変更を余儀なくされた教職員の負担はいかほどであったろう。見通しの立たない中、オンライン授業に踏み切る学校も相次ぐ。これまでも情報化を図ってきた私学は3月からすでに準備を始めていた。公立も遅れて始まった。岐阜県や熊本市はオンラン授業の導入を宣言した。(日本経済新聞 2020.4.28) (西日本新聞 2020.4.4) 神奈川県立高校では県内生徒と教職員14万人にグーグルアカウントを付与、google classroom という学習のためのツールが2019年から使える状態になっていた。(教育家庭新聞 2020.2.3)

小淵内閣が打ち出したミレニアム・プロジェクトから20年、なかなか進まなかった「教育の情報化」が、わずか数週間で一気に動いた感がある。

## 博物館・美術館・図書館の動向

3月早々に国立の博物館と美術館が休館になった。代わりに公開予定だった展示案内を動画で配信する(東京国立博物館)などのサービスが行われ、社会教育機関での成果やコレクションをネット上で紹介する動きが世界的にも広がっている。

公共図書館は saveMLAK による「COVID-19

の影響による図書館の動向調査」(2020.4.20)によると、1626館中の休館は88%。貸出本の「宅配」サービスが増えつつある。電子書籍やデータベースなどのオンラインサービスの利用ができる館が47館。インターネット上の利用できる情報源の紹介が34館。オリジナルコンテンツをネット上にあげているのが24館となっている。電子書籍をはじめ、非来館型サービスの有難みが明らかになっている。

(<https://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:%E3%83%97%E3%83%AC%E3%82%B9/20200424> 2020.5.3 確認)

## 学校図書館の動向

文部科学省は4月23日「休館中の図書館、学校休業中の学校図書館の取り組み事例について、参考にしていただくよう周知をお願いする事務連絡」において、分散登校日や郵送による貸出、おすすめ本の学校ホームページでの紹介をあげている。実際に貸出はそうに行われている。電子書籍の導入を始めた学校もある。さらにはインターネット上の情報源の紹介やコンテンツを作ってアップすること、家庭学習の支援のための情報提供が欲しいところだ。

### 1) 休校中の学習・読書のためのリンク集

もともとフリーで公開されていたコンテンツに加えて、期間限定で公開となった電子書籍や動画、塗り絵、映画、劇場中継や、演奏会、データベースなどが次々と登場した。博物館・美術館・図書館等のコレクションや展示案内・研究紹介もあれば、著者や俳優による読み聞かせや朗読も公開された。そのようなフリーコンテンツのリンク集を作って案内した実践が見られた。(工学院中学校・高等学校、関西学院中学部図書館、都立町田総合高等学校図書館、明治学院中学校・東村山高等学校など) 現在、鳥取県立図書館、都立図書館などもまとめているが、文

部科学省も「子どもの学び応援サイト」で総合リンク集を作っている。

([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/ikusei/gakusyushien/index\\_00001.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/index_00001.htm) 2020.5.3 確認)

2) 学習、読書のためのコンテンツづくり  
図書館自ら情報を創りだしてもらいたい。

三重県インターネット放送局の「三重の教育」の在宅学習用動画には三重県学校図書館協議会司書部が作成した「本ススメ」がアップされている。(2020.5.2 確認) 読書のすすめと利用教育を合わせた動画は高校生にはふさわしい。今後も増やしていく予定だということで、期待される。

東京都立高等学校学校司書会ではホームページに

「都立高校の生徒のためのラーニングスキルガイド～レポート作成編～」(2018)を公開した。

### #図書館は動きつける・・・・・・・・・・・・・・・・

子どもがいなくて何もできないことがないという前に、何ならできるのかを探って、1つでもなにかを実践してもらいたい。直接会えないのであれば、インターネットの力を借りよう。場の共有ができなくとも、ネットの上にもバーチャルな「広場」は広がっている。子どもの学びを止めないと頑張っている教員を支援していくこと、それもまた、学校図書館の使命であることを忘れまい。(なかやま みゆき：立教大学)

注：「#図書館は動きつける」は県立長野図書館のホームページにあって、引用させていただいた。



## 大学1年生の君が、 はじめてレポートを 書くまで。 川崎昌平

A5判美装カバー168頁 1400円

ノートのとり方

図書館の使い方

ネットの読み方

意見のたて方

引用の仕方

やる気の保ち方

マンガで学べるよ!!



学びの基本を身につけよう!  
大学生になったけど…  
「どう勉強すればいいの?」  
に答えます。

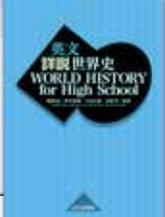
**ミネルヴァ書房** 京都市山科区日ノ岡堤谷町 1  
TEL075-581-0296 ※価格税別

# 英文

## 詳説 世界史

WORLD HISTORY for High School

橋場弦 岸本美緒 小松久男 水島司 監修



本体2,700円+税

高校の教科書をもとに英訳。  
グローバル化がすすむ今日、  
諸外国の人々と国際情勢や歴史文化について  
語り合おうとすると、  
ビジネスマンにも学生にも役に立つ一冊!

2019年8月刊行 A5判 オールカラー464頁 ISBN978-4-634-64162-4 C0022

**山川出版社** 〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-13-13  
TEL 03-3293-8131 FAX 03-3292-6469 <https://www.yamakawa.co.jp/>

# すごいぞ! はたらく知財

14歳からの知的財産入門

著作権? 商標? それって人生に必要な?

著作物、特許、商標、意匠など、ものづくりの仕事に必須のリテラシーが1冊になった知財入門書の決定版! 11の仕事に焦点をあて、そこに生まれる権利の正しい利用方法をわかりやすく解説します。 1500円



内田朋子・萩原理史・田口壮輔・島林秀行 著 / 桑野雄一郎 監修

**晶文社** 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-11  
Tel 03-3518-4940 <http://www.shobunsha.co.jp>

観世流シテ方 片山清司が語る能楽世界

## 能の絵本シリーズ

全6巻セット  
ISBN978-4-7764-0269-5  
定価 本体 9,600円+税  
(各定価 本体 1,600円+税)

**隅田川**  
愛しいわが子をさがして

**玉井**  
海幸彦と山幸彦

**項羽**  
大王の赤い花

**天鼓**  
天からふってきた鼓

**道成寺**  
大蛇になった乙女

**舍利**  
草駄天と足疾鬼



能の代表的な物語を、能楽師である片山清司氏の文章と、日本画風の美しい絵で描く珠玉の絵本シリーズ。  
日本の伝統芸能である能楽をわかりやすく知ることができます。

**B L 出版** 〒652-0846 神戸市兵庫区出在家町 2-2-20  
For the best Library TEL.078-681-3111 FAX.078-681-3155 <http://www.blg.co.jp/blp>